

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について（お知らせ）

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることなどに留意して分析を進め、このたび、名寄市小・中学校の児童生徒の学力や学習状況の傾向をまとめることができました。

つきましては、明らかになった課題を克服し、さらに児童生徒の学習改善や学習意欲の向上を図るために、学力や学習状況の傾向及び指導の改善策などについてお知らせいたしますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1 小学校の教科に関する調査結果の概要について

*「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・（ ）・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

*今年度から、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されています。

国語

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1二 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える。
〔設問の概要〕
公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれの
ような目的で用いているか、適切なものを選択する。
- 1三 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
〔設問の概要〕
公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□に、「2 調査の内容と結果」の（1）
と（2）で分かったことをまとめて書く。
- 2一（1）目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく。
〔設問の概要〕
食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□に入る、疑問に思ったことの①に
対する答えとして適切なものを選択する。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1四（1）ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
〔設問の概要〕
公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の傍線部ウ（かんしんをもってもらい
たい）の（かんしん）を、漢字を使って書き直す。
〔改善策の例〕
漢字の学習指導に当たっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにする
ことが大切である。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習すること
にとどまらず、本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、
文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切である。また、漢字の指導
は各学年の発達段階に応じて指導することが大切である。その際、それぞれの学年において、
以下を踏まえて指導することが効果的である。特に同音異義語の学習指導に当たっては、同じ
音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで

書くことができるようにすることが大切である。

3二 目的に応じて、質問を工夫する。

〔設問の概要〕

豊職人への【インタビューの様子】の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

情報を集めるためにインタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。その際、話の目的は何か、相手が自分に対して伝えたいことは何かなどの話の内容や話し手の意図を踏まえて十分に聞き取るとともに、インタビューをする自分はどういう情報を求めているのか、聞いた内容をどのように活用しようとしているのかなどを明確にして聞くことが重要である。そのためには、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問をすることが必要である。

3三 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。

〔設問の概要〕

【インタビューの様子】の□に、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く。

〔改善策の例〕

児童がインタビューに必然性を感じることができる話題の設定や、インタビューの成果を生かす場の設定をすることが必要である。また、インタビューの前に、自分の考えをもったり、自分も持っている情報と知りたい情報とを整理したりする活動も有効である。さらに、インタビューの成果を基に児童自身が身に付いたことを自覚できるような振り返りを行うことも大切である。

算数

<全国と比べて成果が見られた設問>

2 (4) 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。

〔設問の概要〕

洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する。

3 (2) 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。

〔設問の概要〕

減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなになるのかを書く。

3 (3) 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。

〔設問の概要〕

被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する。

<全国と比べて課題が見られた設問>

1 (2) 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。

〔設問の概要〕

二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ。

〔改善策の例〕

色板などの具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが重要である。その際、図形の性質や構成要素に着目して考察することができるようにすることが大切である。

- 2 (2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる。
〔設問の概要〕
2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。
〔改善策の例〕
資料の特徴や傾向を読み取る際には、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるようにすることが重要である。
- 2 (3) 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。
〔設問の概要〕
二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。
〔改善策の例〕
目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄について判断することができるようにすることが重要である。
- 3 (4) 示された除法の式の意味を理解している。
〔設問の概要〕
 $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。
〔改善策の例〕
問題を解決する過程で、演算を決定し立式した後、答えを求めるために計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫すると、計算を能率的にすることができることがある。その際、必要に応じて、それぞれの式が何を表しているのかを振り返ることで、式の意味についての理解を深めることができるようにすることが重要である。
- 4 (2) 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。
〔設問の概要〕
何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く。
〔改善策の例〕
日常生活の問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見だし、数学的に表現することができるようにすることが重要である。

2 中学校の教科に関する調査結果の概要について

*「全国」とは全国の平均正答率のことです。

□・漢数字・()・記号は設問番号を示しており、調査問題は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

また、改善策の例については、国立教育政策研究所の解説資料から一部を抜粋して掲載しています。

*今年度から、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施されています。

国語

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 1二 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。
〔設問の概要〕
「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する。
- 2二 相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。
〔設問の概要〕
話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 1一 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。
〔設問の概要〕
「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する。
〔改善策の例〕
説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲な述べ方、さらに中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係などの文章の表現の仕方について考えたりすることが大切である。文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要がある。その際、文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導することが重要である。
- 1三 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。
〔設問の概要〕
「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く。
〔改善策の例〕
文学的な文章を読む際には、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方もつように指導することが引き続き大切である。その際、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導することが重要である。また、文章に示されている書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして、読み手が自分の問題として捉えることができるように指導することも重要である。
- 1四 封筒の書き方を理解して書く。

〔設問の概要〕

「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。

〔改善策の例〕

手紙の基本的な形式に基づき、文字の大きさや配列に注意するなどして丁寧に読みやすく書くように指導することは、社会生活に役立つ書写の能力を育むために重要である。その際、相手の名前を他の文字より大きく書くことなど、手紙の形式に込められた相手への敬意についても考えさせることが大切である。

2三

話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。

〔設問の概要〕

話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く。

〔改善策の例〕

話合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。その際、必要に応じて話合いの話題について確認したり、話合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要である。例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話合いの仕方を見直ししながら進めるように指導することも効果的である。

3一

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。

〔設問の概要〕

意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることなどに留意して書くように指導することが引き続き大切である。また、読み手が文章を読む意図や目的を意識して推敲したり、書いた文章を互いに読み合い、題材の捉え方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べるなど、観点を明確にして交流したりすることも重要である。

4

語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する。

〔設問の概要〕

語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

語感を磨き、語彙を豊かにするためには、事象や行為などを表す多様な語句を、目的や場面に応じて適切に使うことができるように指導することが大切である。

数学

<全国と比べて成果が見られた設問>

8(2)

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

〔設問の概要〕

「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。

9(3)

総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる。

〔設問の概要〕

連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ。

<全国と比べて課題が見られた設問>

2 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。

〔設問の概要〕

連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く。

〔改善策の例〕

連立二元一次方程式を解く場面において、2つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に帰着させて解くといった方針に基づいて、加減法や代入法を用いて解くことができるように指導することが大切である。

本問を使って授業を行う際には、加減法や代入法を用いて解き、それぞれの解き方を比較し、立てた方針を振り返る場面を設定することが考えられる。その際、加減法と代入法のどちらも、2つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に変形して解くことから、連立二元一次方程式を解く際には、一元一次方程式に帰着させるという考え方に生徒自らが気付くように工夫し、加減法や代入法の解き方を理解できるようにすることが大切である。

3 平行移動の意味を理解している。

〔設問の概要〕

$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める。

〔改善策の例〕

図形の移動について考察する際に、移動前と移動後の図形を比較する機会を設け、対応する頂点や辺の位置関係などを読み取ることができるように指導することが大切である。本問を使って授業を行う際には、 $\triangle ABC$ と、その $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に平行移動させた $\triangle DEF$ において、移動前と移動後の2つの図形に着目して、それらの図形の性質や関係を見だし、図形の平行移動について考察する活動を取り入れることが考えられる。

4 反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。

〔設問の概要〕

反比例の表から式を求める。

〔改善策の例〕

表、式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を式で表すことができるように指導することが大切である。

本問を使って授業を行う際には、反比例の表から、 x の値とそれに対応する y の値の積が常に一定の値になり、その値が比例定数であることを確認するなど、表から式を求めることができるように指導することが大切である。また、 a を比例定数とし、 y が x に反比例すると

き、 $y = \frac{a}{x}$ または、 $xy = a$ という式で表されることを確認することも大切である。

6 (1) グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる。

〔設問の概要〕

冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの y 座標と点Qの y 座標の差が表すものを選ぶ。

〔改善策の例〕

問題解決において用いたグラフ上の2点の y 座標の差を事象に即して解釈する活動を取り入れることで、グラフを事象に即して解釈できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフにおいて、「グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差」を事象に即して解釈する場面を設定することが考

えられる。その際、表で与えられた情報を基に、使用年数と総費用の関係をグラフに表し、グラフの横軸は使用年数、縦軸は総費用を表すことを確認して、グラフを事象に即して解釈する活動を取り入れることが大切である。

- 6 (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

〔設問の概要〕

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。

〔改善策の例〕

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるように指導することが大切である。

- 7 (2) 反例の意味を理解している。

〔設問の概要〕

ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ。

〔改善策の例〕

証明の指導においては、命題が常に成り立つことを示すばかりでなく、常に成り立つとは限らないことを説明できるようにすることも必要である。命題が常に成り立つとは限らないことを示すには反例を1つあげればよいことや、反例は命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例であることを理解できるように指導することが大切である。

- 7 (3) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。

〔設問の概要〕

四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。

〔改善策の例〕

与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとする条件は変えずに、正方形ABCDを他の四角形ABCDに変えた場合、 $AF = CE$ となる四角形はどのような四角形であればよいかを考え、説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、正方形以外の四角形ABCDの例をいくつかあげ、正方形ABCDの証明を振り返り、それぞれの四角形ABCDの $\triangle ABF$ と $\triangle CBE$ に着目し、 $\triangle ABF \equiv \triangle CBE$ であれば $AF = CE$ が成り立つことを確認する場面を設定することが考えられる。その上で、 $\triangle ABF \equiv \triangle CBE$ になるための条件を考え、 $\angle ABF$ と $\angle CBE$ は共通な角であることは変わらないことや、 $BF = BE$ は $AB = CB$ から導かれることから、 $AB = CB$ であれば $\triangle ABF \equiv \triangle CBE$ になることを確認し、正方形以外の他の四角形ABCDにおいて $AB = CB$ であれば、 $AF = CE$ なることを見いだす活動が考えられる。

- 9 (1) 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる。

〔設問の概要〕

説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する。

〔改善策の例〕

文字式を用いた説明を読む際には、説明すべき事柄に照らし合わせて式変形の目的を捉えることが大切である。本設問を使って授業を行う際には、「連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍である。」が成り立つことの説明を振り返り、説明すべき事柄「連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍である。」と照らし合わせて式変形の目的を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、 $6n + 9$ が連続する3つの奇数の和であることや $3(2n + 3)$ が $6n + 9$ を変形したものであることに着目し、 $3(2n + 3)$ について、「なぜ $3 \times \square$ の形にするか」、「何の3倍になっているか」、「 $2n + 3$ は何を表しているか」などを確認することが大切である。

英語

<全国と比べて成果が見られた設問>

- 2 まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。
〔設問の概要〕
イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える。
- 9(1)① 文の中で適切に接続詞を用いることができる。
〔設問の概要〕
文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。

<全国と比べて課題が見られた設問>

- 5(1) 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。
〔設問の概要〕
ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する。
- 5(2) 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。
〔設問の概要〕
ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
〔5(1)(2)の改善策の例〕
簡単な語句で書かれた数文程度の英語を読み取るためには、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を適切にとらえたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けさせる必要がある。具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。
- ・音声で十分慣れ親しんだ語句や文を使った英語の場合は、口頭導入でおおまかな内容を理解してからではなく、初めから独力で読み取る活動
 - ・絵やグラフなどの資料を含む英文を読み取る活動
 - ・様々な形式の英語（広告、メニュー、メモ、メールなど）を読み取る活動
 - ・読む時間を設定するなど、短時間で内容を把握する活動
- 本問においては、個々の単語を抽出して指導するだけでなく、borrow books や take pictures などの語と語のつながりや、a man with a bag や hotter than 20 °C など、語句の修飾関係に着目して英語を読み取らせる指導が考えられる。

- 6 まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる。
〔設問の概要〕
発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する。
〔改善策の例〕
説明文やエッセイ、物語など、まとまりのある文章のあらすじを読み取る際には、文章全体を通して、段落相互の関係を考えながら読むことが大切である。指導に当たっては、読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても、推測して読み進めていくようにしたい。また、文章を読むことに慣れさせるためには、教科書や他の題材を数多く読ませることが必要である。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・文章全体や段落ごとにタイトルを付ける活動
- ・話の内容を数文の英語でまとめる活動
- ・説明文を読み、手順などを整理する活動
- ・物語を読み、起きた出来事を順に整理する活動

9(1)② 文の中で適切に接続詞を用いることができる。

〔設問の概要〕

文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。

〔改善策の例〕

接続詞は、語と語、文と文を結束させ、文章を書く上で重要な役割を果たすものである。その際、節を導く接続詞の習得には論理関係の理解が必要であるため時間がかかることから、言語活動を通して指導していくことが重要である。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・文脈の中で適切な接続詞が用いられているモデル文を見て、その内容を理解する活動
- ・2つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を用いて1つの文を作る活動
- ・適切な接続詞を用いて主節に続く従属節を作文する活動
- ・日本語と英語を比較しながら、主節と従属節の関係を考えるなど、英語の文構造を理解する活動

9(2)① 一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる。

〔設問の概要〕

与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。

9(2)② 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。

〔設問の概要〕

与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。

〔9(2)①・②の改善策の例〕

文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要である。コミュニケーションにおいて時制や人称は大事な事柄であり、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。

指導に当たっては、一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるのではなく、対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考えさせる活動などが考えられる。その際、確実な定着を図るために、ある程度の分量の練習をさせることも重要である。

9(3)① 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。

〔設問の概要〕

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。

9(3)② 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。

〔設問の概要〕

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。

9(3)③ 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。

〔設問の概要〕

与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。

〔9(3)①・②・③の改善策の例〕

言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することは大切である。その際、特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知

識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付けるようにしたい。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解が深まり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度の技能を身に付けることにつながることを指導者として意識することが重要である。

具体的な指導としては、次のような活動が考えられる。

- ・ 憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動
- ・ 生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気付き、修正を加える活動
- ・ 「ローマ出身です。」のように、日本語では省略される傾向にある主語が何であるかを考える活動
- ・ 「誰が？ どうするの？ どこに？」のような教師の発問を通して、英文を書く際に基本的な文や文構造を確認する活動

3 小学校の児童質問紙調査、中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

※ 「全国」とは全国の児童生徒が回答した割合のことです。

()は質問番号を示しており、質問事項は国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

◆小学校の児童質問紙調査の結果の概要について

<全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

項目	本市の児童の傾向
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」という割合が高い。
(5) 自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(7) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(8) 将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」という割合が高い。
(15) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(42) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	「当てはまる」という割合が高い。
(43) 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	「当てはまる」という割合が高い。
(55) 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	「当てはまる」という割合が高い。

<全国と比べて努力を要する傾向を示した項目>

項目	本市の児童の傾向
(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか	「当てはまる」という割合がやや低い。
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	「1時間以上」という割合がやや低い。
(37) 国語の勉強は好きですか	「当てはまる」という割合が低い。

◆中学校の生徒質問紙調査の結果の概要について

<全国と比べて望ましい傾向を示した項目>

項目	本市の生徒の傾向
(7) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(8) 将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」という割合が高い。
(15) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(32) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	「当てはまる」という割合が高い。

(39) 1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(45) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	「当てはまる」という割合が高い。
(60) 1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(61) 1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(62) 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(63) 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(64) 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(65) 1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。
(66) 1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」という割合が高い。

＜全国と比べて努力を要する傾向を示した項目＞

項目	本市の生徒の傾向
(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わってる時間も含む）	「1時間以上」という割合が低い。
(54) 英語の勉強は好きですか	「当てはまる」という割合がやや低い。
(56) 英語の授業はよく分かりますか	「当てはまる」という割合が低い。
(58) あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか	「当てはまる」という割合がやや低い。
(59) あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	「当てはまる」という割合がやや低い。

4 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市の児童生徒においては、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の定着についてはほぼ図られている状況が見られます。

一方で、①根拠を明らかにして考える、②物事を関連付けて考える、③考えたことを条件に応じてまとめたり表したりする、といった力を身に付けさせることや、家庭での学習習慣の確立を図ることなどが継続的な課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、名寄市教育委員会では、授業改善と望ましい生活のリズムの定着を「車の両輪」と位置付け、名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として、市内の小・中学校が一体となった学力向上の取組をさらに推進してまいります。

【主な重点】

(1) 授業改善

思考力、判断力、表現力等を育むために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を次の視点から継続して充実を図ってまいります。

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す
- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような指導に努める
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う
- 問題の解き方や考え方がわかるようにノートにしっかり書く指導の充実に努める

(2) 指導方法・指導体制の改善

学習内容を確実に身に付けさせるために、学年ごとの到達目標を設定し、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導など、個に応じた指導の充実を図ります。

(3) 学習規律の徹底

授業を効率的に進め、児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、すべての小・中学校で全学級における一貫した学習規律の確立を図ります。

(4) 学習習慣の確立

家庭学習の時間を60分程度確保する取組の充実を図ります。

(例：全国学力・学習状況調査の結果及び改善策について、児童生徒・保護者への丁寧な説明、学年に応じた家庭学習の時間の確保、予習－授業－復習のサイクルの確立等)

(5) 学びに向かう集団づくり

自らを律する心を育てる生徒指導と、学級が児童生徒の心の居場所となる学級経営に努めます。